

第 26 回 マクロライド新作用研究会

日 時： 2019 年 7 月 13 日（土） 10：30～16：50

会 場： 北里大学薬学部新 2 号館 2201（〒108-8642 東京都港区白金 5-9-1）

参 加 費： 5,000 円（学生・院生：無料）

当番世話人： 保富 宗城（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室）

後 援： 公益財団法人日本感染症医薬品協会

会場アクセス

北里大学薬学部新2号館・2階「2201」講義室（〒108-8642 東京都港区白金5-9-1）

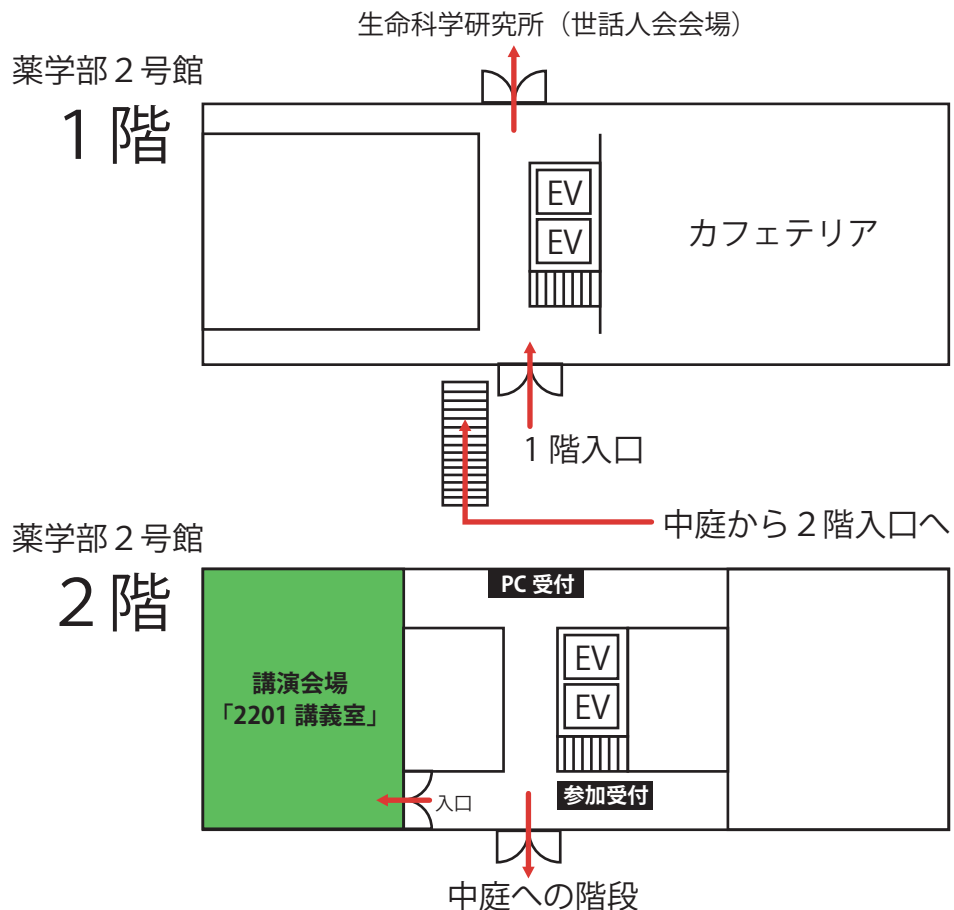
詳細：<https://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/visitor/access/>



- ① 渋谷駅（JR・東京メトロ銀座線・半蔵門線）
東口下車、田町駅行都バス「田 87」系統で約 15 分、北里研究所前下車
タクシー約 15 分（約 1,500 円）
- ② 恵比寿駅（JR・東京メトロ日比谷線）
東口下車、徒歩 15 分または田町駅行都バス「田 87」系統で約 7 分、北里研究所前下車
タクシー「東口」より約 7 分（約 800 円）
- ③ 広尾駅（東京メトロ日比谷線）
天現寺橋方面（出口 1、2 番）下車、徒歩 10 分
タクシー「広尾橋交差点より天現寺橋方面」より約 5 分（約 600 円）
- ④ 目黒駅（JR・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線）
千駄ヶ谷行都バス「黒 77」系統で約 7 分、恵比寿三丁目下車、徒歩 5 分
タクシー「東口」より約 8 分（約 1,000 円）
- ⑤ 白金高輪駅（東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線）
恵比寿方面（出口 3 番）下車、徒歩 10 分
タクシー約 5 分（約 500 円）
- ⑥ 田町駅（JR）、三田駅（都営地下鉄浅草線・三田駅）
三田口下車、渋谷駅行都バス「田 87」系統で約 15 分、北里研究所前下車
タクシー「三田口」より約 12 分（約 1,300 円）
- ⑦ 品川駅（JR・京浜急行）
新宿西口行都バス「品 97」系統で約 20 分、天現寺橋下車、徒歩 5 分
タクシー「高輪口」より約 10 分（約 1,300 円）

会場案内図

北里大学薬学部新2号館・2階「2201」講義室



第 26 回マクロライド新作用研究会・プログラム

10:30-11:00 当番世話人挨拶・イントロダクション

和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 保富 宗城

11:00-12:15 ミニシンポジウム

座長： 清水 猛史（滋賀医科大学耳鼻咽喉科学教室）

砂塚 敏明（北里大学北里生命科学研究科教授/北里大学大学院感染制御科学府）

- 1 **Azithromycin, a 15-membered macrolide antibiotic, inhibits influenza A(H1N1)pdm09 virus infection by interfering with the virus internalization process**

Asia International Institute of Infectious Disease Control (ADC), Tran huu Dat
Teikyo University

- 2 **マクロライド系薬投与による細菌叢への影響と腸管粘液産生性の評価**

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学 武 優希

- 3 **Azithromycin は RAW 264.7 細胞からの LPS 誘導 HMGB1 の放出を抑制する**

大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座 吉川 裕喜

- 4 **クラリスロマイシン長期投与の高齢者における肺炎抑制効果に関するランダム化比較試験**

大分大学医学部呼吸器感染症内科学講座 山末 まり

- 5 **マクロライドは就学前児に於ける反復製喘息～喘息発作を阻止できるか**

小児科まつや医院 松谷 敏郎

12:15-13:30 昼休憩・世話人会（12:30-13:20）

13:30-14:30 特別講演

座長： 保富 宗城（和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室）

肺炎クラミジア感染症の基礎と臨床

関西医科大学 呼吸器感染症・アレルギー科 宮下 修行

14:40-15:30 コーヒーブレイクセミナー

座長： 工藤 翔二（公益財団法人結核予防会理事長）

肺炎マイコプラズマの関連病態について—話題提供—

東京医科大学病院 感染制御部・感染症科 渡邊 秀裕

共催：大正製薬株式会社

15:40-16:40 教育セミナー

座長： 山谷 睦雄（東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学寄附講座）

誤嚥性肺炎という概念の行方

大分大学医学部 呼吸器・感染症内科学講座（結核医療体制強化事業） 小宮 幸作

16:40-16:50 閉会の辞・次回当番世話人挨拶

17:00-18:30 懇親会

世話人の方へ

世話人会 7月13日（土）12：30～13：20

北里大学生命科学研究所大学院感染制御科学府 2階 会議室

発表者の方へ

※一般演題 発表時間 10分、討論 5分

※演者は発表 30 分前までに、会場前の PC 受付にお越しください。

※後日、発表要旨を研究会記録に掲載いたしますこと、予めご了承ください。

詳細は別途（公益財団法人日本感染症医薬品協会より）ご連絡申し上げます。

懇親会

7月13日（土）17：00～18：30

北里大学 北里柴三郎記念館 2階 「白金サロン」

特別講演

肺炎クラミジア感染症の基礎と臨床

関西医科大学 呼吸器感染症・アレルギー科

宮下 修行

肺炎クラミジアは飛沫感染によってヒトからヒトへ伝播する。感染機会が多いにもかかわらずそのほとんどが不顕性感染であり、顕性感染であっても感冒様症状にとどまることが多い。このため抗菌薬が投与されない症例が多く、小集団内でゆっくり蔓延することが大きな特徴とされている。また、持続感染を引き起こすことが判明しており、慢性炎症性疾患との関連性が注目されている。本講演では肺炎クラミジア研究を総括したい。

教育セミナー

誤嚥性肺炎という概念の意義

大分大学医学部 呼吸器・感染症内科学講座 准教授（結核医療体制強化事業）

小宮 幸作

超高齢社会を背景に、日本呼吸器学会は成人肺炎診療ガイドライン 2017 において、繰り返す誤嚥性肺炎は老衰と判断できる場合があることを示し、積極的治療を控える選択肢も示した。しかし、「誤嚥性肺炎」という病名は診断のためのゴールドスタンダードが存在しない。それにも関わらず、私たちはその病名を汎用している。近年の「誤嚥性肺炎」に関する報告をもとに、その概念が存在し続ける意義について考察する。

コーヒーブレイクセミナー

肺炎マイコプラズマの関連病態について—話題提供—

東京医科大学病院 感染制御部・感染症科

渡邊 秀裕

2006-7 年、2011-12 年（大流行）、2016-17 年にも流行が見られ、2020-21 年
が心配される。マクロライド耐性は 2011-12 年に 80%に達したが、2015 年以降感
受性が増加してきた。P1 型の変化が関与している。興味ある関連病態など話題提供し
てみたいと思う。

共催：大正製薬株式会社

Azithromycin, a 15-membered macrolide antibiotic, inhibits influenza A(H1N1)pdm09 virus infection by interfering with the virus internalization process

Asia International Institute of Infectious Disease Control (ADC), Teikyo University

Tran huuDat (チャン フー ダツ)

The pandemic influenza 2009 (A(H1N1)pdm09) virus currently causes seasonal and annual epidemic outbreaks. The widespread use of neuraminidase inhibitors has resulted in the emergence of drug-resistant influenza viruses. In this study, we aimed to determine the anti-influenza A(H1N1)pdm09 virus activity of azithromycin (AZM), a re-positioned macrolide antibiotic with potential as a new antiinfluenza candidate, and to elucidate its underlying mechanisms of action. Our in vitro approaches indicated that progeny virus replication was remarkably inhibited by treatment of viruses with AZM before infection; however, AZM administration after infection did not affect virus replication. Further studies elucidated that AZM did not affect attachment of viruses onto the cell surface, but blocked internalization into host cells during the early phase of infection. This unique inhibitory mechanism by AZM has not been observed in other anti-influenza drugs, indicating the potential activity of AZM before and after influenza virus infection. We performed intranasal administration of AZM into mice infected with A(H1N1)pdm09 virus. Single treatment with AZM via the intranasal route reduced viral load in the lungs and relieved hypothermia induced by infection. Our findings show that AZM is an effective macrolide for the treatment of human influenza.

ミニシンポジウム②

マクロライド系薬投与による細菌叢への影響と腸管粘液産生性の評価

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学

武 優希、森永 芳智、佐々木大介、賀来 敬仁、小佐井康介、坂本 啓、
宇野 直輝、長谷川寛雄、柳原 克紀

マクロライド系薬による細菌叢の影響をみるためにマウスを用いてクラリスロマイシン、ジョサマイシンの2 剤の影響について評価した。両薬剤投与により、腸内細菌叢は変容が起きる一方で、下気道細菌叢の変化は見られなかった。クラリスロマイシンにより結腸の粘液産生が増加した。腸管バリア機能を修飾することによる免疫系への影響も示唆された。

Azithromycin は RAW 264.7 細胞からの LPS 誘導 HMGB1 の放出を抑制する

大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座

吉川 裕喜

High Mobility Group Box 1 (HMGB1)はマクロファージや壊死細胞から細胞外に放出されるタンパクであり、嚢胞性線維症患者や好中球性喘息患者の喀痰や慢性閉塞性肺疾患患者の気管支肺胞洗浄液において高値となる。Azithromycin がRAW 264.7 細胞からのLPS 誘導HMGB1 の放出を抑制した。HMGB1 はマクロライドの抗炎症作用の因子となる可能性が示唆される。

ミニシンポジウム④

クラリスロマイシン長期投与の高齢者における肺炎抑制効果に関するランダム化比較試験

- 1) 大分大学医学部呼吸器感染症内科学講座
- 2) 大分赤十字病院呼吸器内科
- 3) 大分県立病院呼吸器内科
- 4) 長崎大学病院呼吸器内科・感染症内科（第二内科）
- 5) 産業医科大学病院呼吸器内科

山末 まり¹⁾、小宮 幸作¹⁾、吉川 裕喜¹⁾、重永 武彦²⁾、大谷 哲史³⁾、
井手口周平⁴⁾、今村 圭文⁴⁾、野口 真吾⁵⁾、矢寺 和博⁵⁾、迎 寛⁴⁾、
門田 淳一¹⁾

過去3 ヶ月以内に肺炎の既往のある高齢者をクラリスロマイシン長期投与群または非投与群に無作為に群別し、1 年以内の肺炎再発率を比較した。投与群では13 例中2 例（15%）、非投与群では15 例中5 例（33%）が再発した（ $p = 0.268$ ）。再発までの期間にも両群間で有意差は認めなかった。限られた症例数での詳細な結果を報告する。

マクロライドは就学前児に於ける反復性喘鳴 ～喘息発作を阻止できるか

小児科まつや医院

松谷 敏郎

長びくカゼ（咳 1～2 ヶ月）を繰り返す患者さんからマクロライドが効くのを知り、乳幼児に試してみた。症状は数日でなくなる患児がいた。咳嗽がひどくなると喘鳴、喘息発作がみられるのに、マクロライドで喘鳴は見られなくなっていた。長引くカゼを反復する乳幼児の中には、喘鳴（喘息）を反復する患児もみられていた。

反復性喘息様症状のみられる乳幼児にマクロライドを早期投与すれば、発作阻止できるのでは、例え発作がみられても症状を軽減、期間短縮出来るかも知れないと考えた。

コーヒーブレイクセミナー共催社

大正製薬株式会社

事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-3 本郷UCビル4階

株式会社コンベンションアカデミア内

電話番号：03-5805-5261

FAX：03-3815-2028

EMAIL：macrolide@coac.co.jp

